

■殺虫剤：農業用

有機リン系

スミチオン[®]乳剤

登録番号：22647(500ml、5ℓ包装)
4962(1ℓ包装)

毒性：一

消防法：第2石油類

有効年限：5年(500ml、5ℓ包装)
4年(1ℓ包装)

成分 MEP……50.0%

物理的・化学的性状 黄赤色可乳化油状液体

包装：500ml×20 5ℓ×4 1ℓ×10

◆特長

- 浸透性に優れる有機リン系殺虫剤です。
- 広範囲の作物に使用でき、幅広い害虫に効果があります。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数				
稲	ニカメイチュウ第1世代	1,000～ 2,000倍	60～150ℓ / 10 a	収穫21日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (種もみへの処理は 1回以内、育苗箱 散布は1回以内、 本田では2回以内)				
	ニカメイチュウ第2世代	800～									
	サンカメイチュウ第3世代	1,000倍									
	ヒメトビウンカ カメムシ類 イネツトムシ イネシガラセンチュウ イネドロオイムシ アブラムシ類 アワヨトウ	1,000倍									
	イネハモグリバエ	1,000～ 2,000倍									
	イネヒメハモグリバエ	2,500倍									
	フタオビコヤガ	2,000～ 4,000倍									
	イネシガラセンチュウ	1,000倍						—	は種前	1回	6～72時間 浸漬
		100倍									専用の種子消毒 機を用いて乾燥 種籾重量の3% の量の希釈液を 種籾に吹付け処 理又は塗沫処理

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数	
稲	ニカメイチュウ ヒメトビウンカ カメムシ類 イネハモグリバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ イネツトムシ	30倍	3ℓ/10a	収穫21日前 まで	2回 以内	空中散布	3回以内 (種もみへの処理は 1回以内、育苗箱 散布は1回以内、 本田では2回以内)	
	ニカメイチュウ カメムシ類	8倍	800mℓ/10a					無人航空機に よる散布
		300倍	25ℓ/10a			散布		
稲 (箱育苗)	イネシンガレセンチュウ	1,000倍	育苗箱 (60×30×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	硬化期～ 移植前日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。		
麦 類 (大麦、小麦 を除く)	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ		30倍	60～150ℓ/10a		収穫14日前 まで		散布
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ ヒメトビウンカ	空中散布						
	アブラムシ類	8倍	800mℓ/10a	無人航空機に よる散布				
	大 麦	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1,000倍	60～150ℓ/10a	1回		散布	
ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ ヒメトビウンカ		30倍	3ℓ/10a	空中散布				
アブラムシ類		8倍	800mℓ/10a	無人航空機に よる散布				
小 麦		アブラムシ類	250倍	25ℓ/10a		収穫7日前 まで	散布	
	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1,000倍	60～150ℓ/10a					
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ ヒメトビウンカ	30倍	3ℓ/10a	空中散布				
	アブラムシ類	8倍	800mℓ/10a	無人航空機に よる散布				
	とうもろこし	アワノメイガ カメムシ類	1,000倍	100～300ℓ/ 10a	4回 以内		散布	4回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農業の 総使用回数				
りんご	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍	200～700 ℓ / 10 a	収穫30日前 まで	3回 以内	散布	3回以内				
	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 ナシグンバイ	1,000倍									
	クワコナカイガラムシ	1,500倍									
	アメリカシロヒトリ	1,000倍									
	なし (有袋栽培)	アブラムシ類						1,000～ 2,000倍	収穫14日前 まで	6回 以内	6回以内
		シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類						1,000倍			
クワコナカイガラムシ		1,500倍									
アメリカシロヒトリ		1,000倍									
なし (無袋栽培)		アブラムシ類		1,000～ 2,000倍	収穫21日前 まで						
		シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類		1,000倍							
	クワコナカイガラムシ	1,500倍									
	アメリカシロヒトリ										
	かき	ハマキムシ類 カキノヘタムシガ カキホソガ フジコナカイガラムシ オオワコナカイガラムシ カメムシ類 イラガ類 アメリカシロヒトリ ミノガ類若齢幼虫	1,000倍	収穫45日前 まで		3回 以内			3回以内 (樹幹処理は 2回以内)		

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農業の 総使用回数				
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ (心折防止)	1,000～ 2,000倍		収穫3日前 まで	6回 以内		6回以内 (樹幹処理は 1回以内)				
	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 クワシロカイガラムシ カメムシ類	1,000倍									
	クワコナカイガラムシ	1,500倍									
みかん	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍	200～700ℓ / 10 a	収穫14日前 まで	5回 以内	散布	5回以内 (樹幹処理は 1回以内)				
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシクスイ類 コアオハナムグリ フラーバラゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1,000倍									
	ケシクスイ類 コアオハナムグリ アザミウマ類	10倍	5ℓ /10 a			無人航空機に よる散布					
なつみかん	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍	200～700ℓ / 10 a	収穫21日前 まで	3回 以内	散布	3回以内 (樹幹処理は 1回以内)				
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシクスイ類 コアオハナムグリ フラーバラゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1,000倍									

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農業の 総使用回数	
大粒種ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1,000～ 2,000倍	200～700ℓ / 10 a	収穫30日前 まで	2回 以内	散布	4回以内 (収穫終了後から 萌芽までは2回 以内、萌芽後は 2回以内)	
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチフトソウムシ成虫	1,000倍						
	クワコナカイガラムシ	1,500倍						
小粒種ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1,000～ 2,000倍		収穫90日前 まで				
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチフトソウムシ成虫	1,000倍						
	クワコナカイガラムシ	1,500倍						
おとう	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍		収穫21日前 まで				2回以内 (樹幹処理及び 灌注処理は合計 1回以内)
	ハマキムシ類 ナシゲンバイ アメリカシロヒトリ	1,000倍						
	うめ	アブラムシ類 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類						
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ	50倍	0.3～3ℓ/樹	収穫21日前 まで	3回 以内	樹幹散布	3回以内	
オリーブ(葉)				収穫120日前 まで				
いちよう (種子)				コウモリガ ヒメボクトウ				100倍
いちご (露地栽培)	アブラムシ類	2,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫21日前 まで	2回 以内	散布	2回以内	
ほうれんそう								ホウレンソウケナガコナダニ
ねぎ	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍	700～ 1,000倍 1,000倍	2回以内	散布	2回以内		
	アザミウマ類	700～ 1,000倍						
	ネギコガ	1,000倍						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農業の 総使用回数	
ご ぼ う	アブラムシ類 フキノメイガ	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内	
た ま ね ぎ	アブラムシ類 アザミウマ類	700～ 1,000倍		収穫21日前 まで				
ト マ ト	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	2,000倍		収穫開始 14日前まで				
な す	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1,000～ 2,000倍		収穫3日前 まで	5回 以内			5回以内
き ゆ う リ メ ロ ン し ろ う リ	アブラムシ類 アザミウマ類	1,000倍		収穫前日 まで				
す い か	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍		収穫3日前 まで	6回 以内			6回以内
	アザミウマ類	700～ 1,000倍						
か ぼ ち ゃ	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍		収穫14日前 まで	3回 以内			3回以内
	アザミウマ類	700～ 1,000倍						
だ い ず	マメシンクイガ ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ マメヒメサヤムシガ カメムシ類	20倍		3ℓ /10 a	収穫21日前 まで			4回 以内
	ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤムシガ カメムシ類 ウコンノメイガ マメシンクイガ	8倍	800mℓ/10 a	無人航空機に よる散布				
	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ マメハンミョウ	1,000倍	100～300ℓ / 10 a	散布				
	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000～ 1,500倍						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農業の 総使用回数	
えんどうまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1,000倍	100~300ℓ / 10 a	収穫30日前 まで	4回 以内	散布	4回以内	
	アブラムシ類	1,000~ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000~ 1,500倍						
豆 類 (種実、ただし、 だいず、あずき、 いんげんまめ、 えんどうまめ、 そらまめを除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1,000倍		収穫21日前 まで				
	アブラムシ類	1,000~ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000~ 1,500倍						
未成熟そらまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1,000倍		収穫3日前 まで				3回 以内
	アブラムシ類	1,000~ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000~ 1,500倍						
豆 類 (未成熟、た だし、えだまめ、 さやいんげん、 未成熟そらまめ を除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1,000倍		収穫21日前 まで				4回 以内
	アブラムシ類	1,000~ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000~ 1,500倍						
えだまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ	1,000倍	1,000~ 2,000倍	1,000~ 1,500倍				
	アブラムシ類	1,000~ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000~ 1,500倍						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農業の 総使用回数	
いんげんまめ さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫21日前 まで	4回 以内	散布	4回以内	
	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000～ 1,500倍						
あ ず き	アズキノメイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ マメホソクチゾウムシ	1,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫3日前 まで	3回 以内	散布	3回以内	
	アブラムシ類	250倍 1,000～ 2,000倍						
	マメシンクイガ	1,000～ 1,500倍						
そらまめ	アブラムシ類	1,000倍 250倍	25ℓ /10 a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内	
ばれいしょ	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫7日前 まで	6回 以内		6回以内	
こんにゃく	アブラムシ類			収穫14日前 まで	3回 以内		3回以内	
かんしょ	イモコガ アブラムシ類 ヨツモンカメノコハムシ			収穫7日前 まで	5回 以内	5回以内		
う ど	アブラムシ類 センノカミキリ ヒメシロコブゾウムシ ウドノメイガ ヨトウムシ	1,000倍	100～300ℓ / 10 a	根株養成期 但し収穫 150日前まで	4回 以内	散布	4回以内	
モロヘイヤ	マメコガネ アザミウマ類 アブラムシ類 カメムシ類			収穫14日前 まで	2回 以内			2回以内
わらび	ナガゼンマイハバチ			収穫90日前 まで				

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数
らっきょう	ネダニ類	1,000～ 2,000倍	—	植付前	1回	30分間 種球浸漬	3回以内 (植付前は 1回以内、 植付後は 2回以内)
	アザミウマ類	1,000倍					
せり	アブラムシ類	2,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
				親株養成期 但し収穫 45日前まで			
たらのき	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブゾウムシ	100倍	150～300ℓ / 10 a	3～5月 株養成期		樹幹散布	
茶	コカクモンハマキ	700～	200～400ℓ / 10 a	摘採21日前 まで	1回		1回
	チャノホソガ	1,000倍					
	ミノガ類	1,000倍					
まめ科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
	ムギダニ	1,000倍					
いね科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1,000～ 2,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫30日前 まで		散布	2回以内
	ムギダニ アワヨトウ	1,000倍					
飼料用とうもろこし	アブラムシ類	2,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫30日前 まで			
花き類・ 観葉植物	アオムシ バッタ類 ハマキムシ類 アザミウマ類	1,000倍					
	アオムシ						
ばら	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍		—	6回 以内		6回以内
	フラーバラゾウムシ	1,000倍					
きく	アブラムシ類	1,000～ 2,000倍		—	6回 以内		6回以内
	フラーバラゾウムシ	1,000倍					
	カメムシ類 ヨトウムシ類						
カーネーション	アザミウマ類 クロウリハムシ						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農業の 総使用回数	
宿根かすみそう	ハモグリバエ類	1,000倍	100~300ℓ / 10 a	—	6回 以内	散布		
りんどう	ヒラズハナアザミウマ			発生初期				
アスター	ウリハムシ							
ソリダゴ	カメムシ類							
スターチス	コガネムシ類							
シネラリア	シンクイムシ類							
斑入りアマドコロ	コウモリガ							
ききょう	ヨトウムシ							
樹木類	アメリカシロヒトリ	500~ 1,000倍	200~700ℓ / 10 a	—	1回	30分間 根部浸漬	6回以内	
	フラーバラゾウムシ	1,000倍						
	アブラムシ類							
	ゲンバウムシ類							
	オオハリセンチュウ	500倍	—	移植前	1回	30分間 根部浸漬		
つつじ類	ゲンバウムシ類 ハマキムシ類	1,000倍	200~700ℓ / 10 a	—	6回 以内	散布		
せんりょう	アザミウマ類 カメムシ類							
こでまり	カイガラムシ類							
しきみ	クスアナアキゾウムシ							
にしきぎ	ケムシ類							
しゃりんばい だいおうしょう	シンクイムシ類							
さかき	ハマキムシ類							
さんごじゅ	ワタノメイガ							
げっきつ	ミカンキジラミ							
たばこ	ヨトウムシ							
しちとうい	イネクロカメムシ		60~150ℓ / 10 a	発生初期	2回 以内		2回以内	
芝	シバツトガ	0.3~2ℓ /m ²	3ℓ /m ²		発生初期	6回 以内		6回以内
	スジキリヨトウ							
	コガネムシ類幼虫							
	シバオサゾウムシ			幼虫発生期				
桑	クワゾウムシ成虫	500~ 750倍	100~300ℓ / 10 a	成虫発生期				

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、 セイタカアワダチソウ 等の多年生雑草が優占 している休耕田	カメムシ類	1,000倍	60~150ℓ/10a	4回 以内	散布	4回以内

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ボルドー液と混用する場合は散布直前にいき、できるだけ早く使用すること。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用は避けること。
- (3) 桃の初期散布（5～6月）には薬害の可能性があるため注意すること。
- (4) 梨の早生赤種、りんごの旭及びその近縁種には薬害の可能性があるため使用は避けること。
- (5) 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用は避けること。
- (6) 牧草地に散布した場合は散布直後の放牧は避けること。
- (7) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (8) ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (9) いちごの施設栽培には使用しないこと。
- (10) 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数内でくり返し散布すること。
- (11) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (12) 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ① 散布薬液の飛散によって他の動植物（特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂）に影響を与えないよう散布区域の選定に注意すること。
 - ② 水源地、飲料用水、養殖池等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- (13) 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合はさらに次の注意を守ること。
 - ① 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ② 少量散布（8倍液）の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
 - ③ 無人航空機による散布にあつては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ④ 散布中、薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ⑤ 特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。
 - ⑥ 散布終了後は次の事項を守ること。
 - a) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
 - b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (14) 本剤を希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を利用すること。

- (15) 稲（箱育苗）のイネシンガレセンチウに使用する場合は下記の事項に注意すること。
- ① 発芽期～緑化期の使用は薬害を生ずるおそれがあるので避けること。
 - ② 軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生ずるおそれがあるので使用しないこと。
 - ③ 土壌が極端に湿潤な場合は使用しないこと。
- (16) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (17) かきのミノガ類に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に時期を失ないように散布すること。
- (18) イネシンガレセンチウの本田における防除に使用する場合は、散布適期は出穂の頃であるので時期を失ないように散布すること。なお、効果を高めるためには出穂始めとその1週間後の2回散布が望ましい。
- (19) 水稻種子の吹付け処理の場合は専用の種子消毒機を使用し、乾燥種籾に均一に付着するよう所定薬液を吹付けて乾燥すること。なお、処理後長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、まちがいのないようにすること。
- (20) ほつれんそつに使用する場合は、幼苗期には薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (21) かんぎつのミカンツボミタマバエ防除に使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部及び主幹部を中心とした樹の内部、樹冠下の地表面に散布するのが効果的である。
- (22) 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壌中に十分しみ込むようジョロ等で1㎡当たり3ℓを散布すること。
- (23) まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布すること。なお、防除適期等については病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (24) フラーパラゾウムシに使用する場合は、植物防疫所、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施すること。
- (25) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (26) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (27) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合は使用しないこと。
 - ② 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
 - ③ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
- (28) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。

- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 散布後は水管管理に注意すること。
- (5) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。